

子犬の性格診断と社会化

平成 14 年 2 月 11 日

(平成 13 年度日本獣医公衆衛生学会中部大会及び年次大会 発表抄録：発表者 斉藤 富士雄)

1 はじめに

当センターでは、平成 12 年 6 月から毎月 2 回子犬の譲渡会を開催している。子犬は、生後 12～14 週齢までの身体的社会環境が、その後の子犬の性格に大きく影響を与えていることから、子犬の性格診断を実施して日常の飼育の参考にするとともに、譲渡事業を円滑に推進するため、パピー教室開催時の行動調査やアンケート調査を実施し良好な結果を得ることができたので報告する。

2 材料及び方法

(1) 子犬の性格診断

県内の保健所が平成 12 年 6 月から平成 13 年 8 月までの間に搬入した生後 2～3 ヶ月年齢の子犬 250 頭 (図

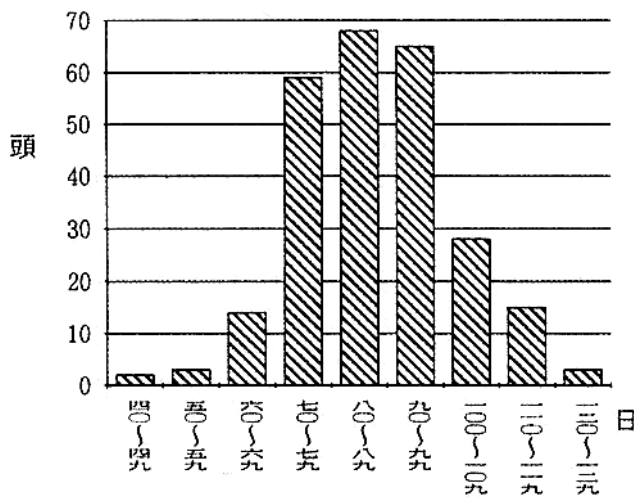
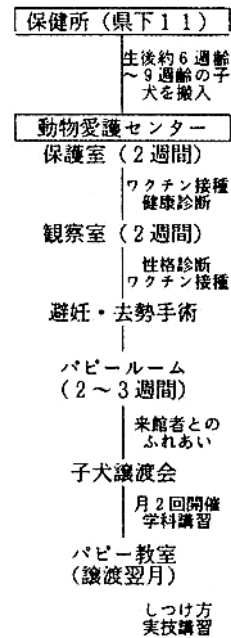


図 1 子犬の日齢



〈センターにおける子犬の譲渡〉

1) について、当センター診察室内で行った。

〈実施方法〉

実施方法は、ウィリアム・E・キャンベルの方法に、当センターで必要な項目を加え実施した。

- ア 社会生活に対する興味：部屋に隅に子犬を座らせ、2 m 離れた場所にしゃがんで手を軽く鳴らして呼ぶ。
- イ 人についてくる性質：子犬の廻りを歩き、犬がついてくるか来ないかみる。
- ウ 束縛された時の支配性：子犬をやさしく仰向けに抱き、片手を胸にあて、子犬を動けないようにする。
- エ 社会生活における支配性：子犬を正面に座らせ、背中、首、肩をやさしく撫でる。
- オ 持ち上げられた時の支配性：指を広げて犬の胸の下に入れ、床から 30 cm 持ち上げる。
- カ 仰向けに抱かれた時の緊張の有無：ウの試験の時に犬の緊張の有無をみる。
- キ 玩具に対する興味：ひもで縛った手袋を犬の前で動かし興味を示して強く噛むかをみる。

- ク 食事中に体を触った時の反応：食事中に食器や犬の体をやさしく触った時の反応を見る。
- ケ 上唇を触った時の反応：子犬を座らせ、左右の上唇を触った時の反応をみる。
- コ 音に対する反応：子犬の近くに箱を落とし、反応をみる。また、軽く手を叩いて反応をみる。

(2) パピー教室時の子犬の行動調査

譲渡会の翌月のパピー教室に参加した子犬について、教室参加時の行動について調査した。

(3) 家庭生活における子犬の状況

パピー教室参加時に、飼い主に対するアンケート調査を実施した。

3 成績

(1) 子犬の性格診断

ア 社会生活に対する興味(表1)

「全然来ようとしない」が、126頭、50.4%であった。

表1 社会生活に対する興味(離れて呼ぶ)

項	目	頭数	%
1	すぐ近寄ってくる=尻尾が上がっている=飛びつき手をかむ	6	2.4
2	すぐ近寄ってくる=尻尾が上がっている=前足を出す	49	19.6
3	すぐ近寄ってくる=尻尾が下がっている	21	8.4
4	ためらいながら近寄ってくる=尻尾が下がっている	48	19.2
5	全然来ようとしない	126	50.4
合計		250	100

イ 人についてくる性質(表2)

「全然ついて来ず立ち去ってしまう」が168頭、67.2%であった。

表2 人についてくる性質(人の後をついて歩く)

項	目	頭数	%
1	すぐついて来る=尻尾が上がっている=足をかむ	2	0.8
2	すぐついて来る=尻尾が上がっている=足にまつわりつく	51	20.4
3	すぐついて来る=尻尾が下がっている	9	3.6
4	ためらうがついて来る=尻尾が下がっている	20	8.0
5	全然ついて来ず立ち去ってしまう	168	67.2
合計		250	100

ウ 束縛された時の支配性(表3)

「静かにしている=手をなめる」が、215頭86.0%であった。

表3 束縛された時の支配性(仰向けにして抱く)

項	目	頭数	%
1	猛烈に暴れ足をばたばたさせる=噛む	1	0.4
2	猛烈に暴れ足をばたばたさせる	3	1.2
3	暴れる=その後静かになる	31	12.4
4	静かにしている=手をなめる	215	86.0
合計		250	100

エ 社会生活における支配性(表4)

「どこかに行ってしまう」が、151頭60.4%であった。

表4 社会生活における支配性(すわらせ優しくなでる)

項	目	頭数	%
1	飛び上がる=前足を出す=噛む=うなる	2	0.8
2	飛び上がる=前足を出す	10	4.0
3	射体をくねくねさせる=手をなめる	74	29.6
4	ひっくり返る=手をなめる	13	5.2
5	どこかに行ってしまう	151	60.4
合計		250	100

オ 持ち上げられた時の支配性(表5)

「静かにして手をなめる」が、237頭94.8%であった。

表5 持ち上げられた時の支配性(持ち上げ床から離す)

項	目	頭数	%
1	猛烈に暴れる=噛む=うなる	1	0.4
2	猛烈に暴れる	2	0.8
3	暴れる=その後静かになる=手をなめる	10	4.0
4	静かにして手をなめる	237	94.8
合計		250	100

カ その他の反応 (表6)

仰向けに抱かれて緊張するもの
166頭66.4%、リラックスしている
84頭33.6%であった。

表6 その他の反応

項	目	+頭数	%	-頭数	%
1	仰向けに抱かれた時の緊張	166	66.4	84	33.6
2	玩具に対する興味	71	28.4	179	71.6
3	食事中に身体を触ったときの反応	6	2.4	244	97.6
4	上唇を触ったときの反応	86	34.4	164	65.6
5	音に対する反応	10	4.0	240	96.0

キ 緊張・リラックスと支配性・従属性による分類 (図2)

縦軸に、支配性、従属性、横軸に、緊張、リラックス (前項ウの試験で判定) としてAからFのカテゴリーに分類した。

- A: リラックスしていて支配性を示す項目が3つ以上
- B: リラックスしていて支配性を示す項目が1または2
- C: 緊張していて従属性を示している
- D: 極度 (動くことができない) に緊張していて従属性を示している
- E: 緊張していて支配性を示している
- F: リラックスしていて従属性を示している

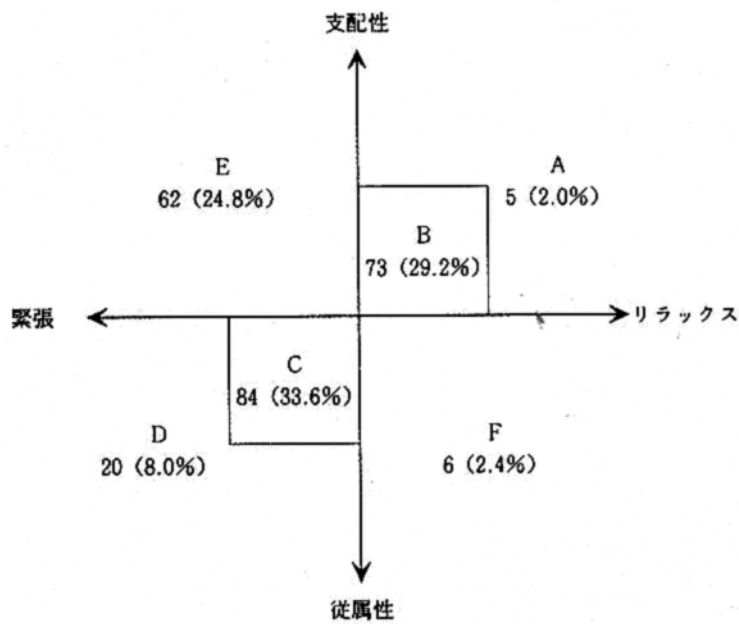


図2 緊張・リラックスと支配性・従属性による分類

(2) 譲渡後（一カ月）のパピー教室参加時の犬の状況（表7）

パピー教室参加時の子犬の状況について調査した結果表7のとおりであった。

表7 譲渡後（一カ月）のパピー教室参加時の犬の状況

(調査頭数：135)

項目	頭数	%
室内でリラックスしている	126	93.3
室内で緊張している	9	6.7
飼い主に抱かれてリラックスしている	114	84.4
飼い主に抱かれて緊張している	21	15.6
他の犬に高い関心を示さない	132	97.8
他の犬に高い関心を示す	3	2.2
上手に歩ける	119	88.1
上手に歩けない	16	11.9
「オスワリ」ができる	128	94.8
「オスワリ」ができない	7	5.2
「オイデ」ができる	119	88.1
「オイデ」ができない	16	11.9

(3) 家庭内における飼育環境（アンケート調査）（表8）

家庭における飼育状況について、調査した結果表8のとおりであった。

表8 家庭における飼育状況（アンケート調査）

アンケート 143 回答 108

平成13年2月実施

項目	頭数	%
屋内で飼育している	37	24.3
屋外で飼育している	71	65.7
散歩について		
1 上手にできる	24	22.2
2 ほぼできる	59	54.6
3 できない	24	22.2
4 回答なし	1	1.0
噛む		
1 噛むことがある	9	8.3
2 たまにある	31	28.7
3 無い	64	59.3
4 回答なし	4	3.7
屋内飼育におけるトイレ		
1 上手にできる	11	29.7
2 ほぼできる	16	43.2
3 できない	10	27.1
4 回答なし	0	0

4 まとめ及び考察

本調査で行った性格診断の方法は、生後3ヶ月前後の子犬の性格を把握する方法として有効である事がわかった。

子犬の社会化目標（1. センターの飼育環境に慣れること。2. 人や他の犬と十分接触すること。3. トイレトレーニングの実施（決められた場所での排泄）。4. 人の言葉に集中すること。「オスワリ」ができる。5. 極度に緊張する犬に対する対応。）を設定し実施した結果、ほぼ目標を達成することができた。

今後は、極度に緊張する子犬の社会化方法の検討や譲渡した子犬について継続して調査を行ってきたい。

〈参考文献〉

- 1 ウィリアム・E・キャンベル著 愛犬のトラブル解決法 新生出版社